

2023年2月10日 コングレスクエア日本橋
一般社団法人 日本医学会連合 加盟学会連絡協議会
「医学会におけるダイバーシティの取り組みと課題」

ダイバーシティ推進に向けた 日本小児科学会の取り組み

日本小児科学会 女性全国区理事
石崎 優子

本日の内容

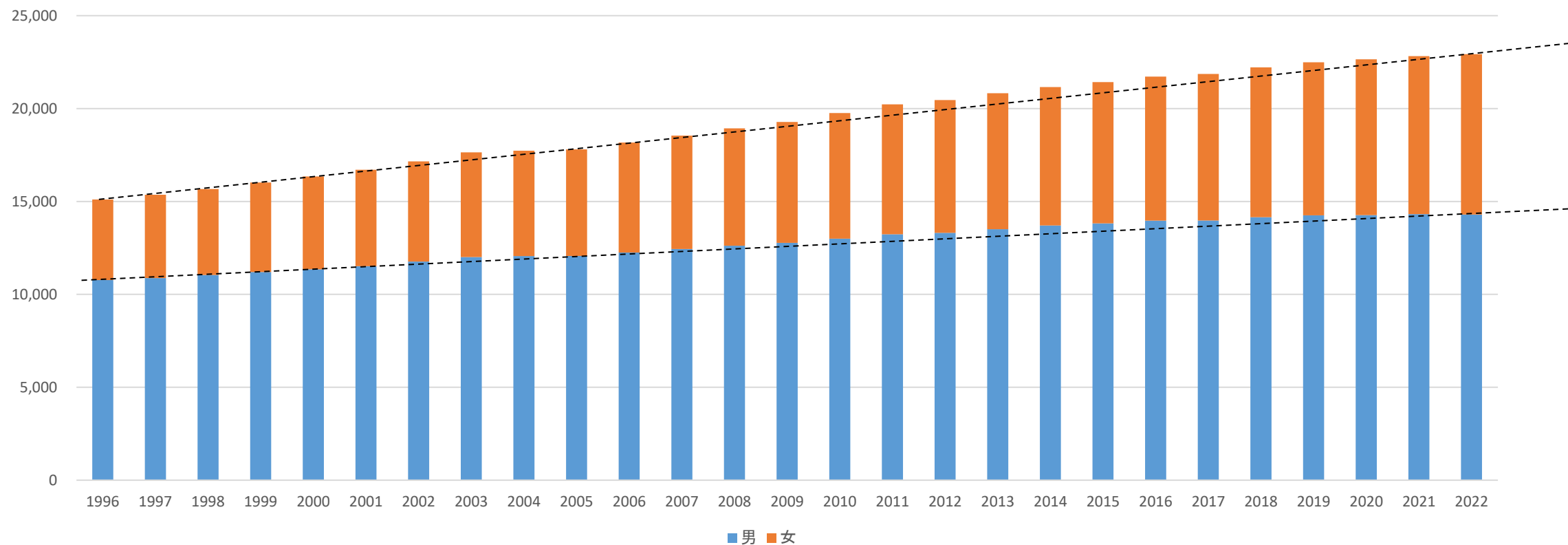
- 日本小児科学会の会員数と女性割合
- 日本小児科学会の男女共同参画の取り組み
- 男女共同参画推進委員会の今後の課題

日本小児科学会会員数と 女性割合

男女別会員数の推移

2022年9月1日
男性14,297人
女性 8,632人
女性比率 37.5%

日本小児科学会男女別会員数



年齢階級別構成

50歳未満では
女性が40%以上
24-29歳では半数

| 年齢 | 会員数 | 男性 | 女性 | 女性比率 |
|-------|--------|--------|-------|-------|
| 24～29 | 1286 | 651 | 635 | 49.4% |
| 30～39 | 4952 | 2820 | 2132 | 43.1% |
| 40～49 | 5469 | 3092 | 2377 | 43.5% |
| 50～59 | 4137 | 2504 | 1633 | 39.5% |
| 60～69 | 4227 | 3087 | 1140 | 27.0% |
| 70～ | 2881 | 2153 | 728 | 25.3% |
| | 22,952 | 14,307 | 8,645 | 37.7% |

日本小児科学会の 男女共同参画の取り組み

男女共同参画社会にむけた 日本小児科学会の取り組み

- 2002年 小児科女性医師の働く環境改善委員会
 - 2003年 女性医師の領域での環境改善プロジェクト委員会
 - 2006年 小児科医のQOLを改善するためのプロジェクトチーム
 - 2006年 女性医師の職域での環境改善委員会
 - 2012年 小児医療委員会内小児科医ワークライフバランス
改善ワーキンググループ
 - 2014年 男女共同参画推進委員会
- 現在に至る。

日本小児科学会における 男女共同参画推進の基本理念と基本方針

基本理念

- ・ 男女共同参画社会とは、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意志によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、ともに責任を担うべき社会」です。（男女共同参画社会基本法第2条）
- ・ さらに日本小児科学会は会員の小児科診療、研究、教育を通じて男女共同参画社会の推進に貢献します。

基本方針

1. 男女共同参画の視点にたった学会活動
2. 意識啓発
3. 環境整備
4. 教育

日本小児科学会の基本方針

1. 男女共同参画の視点にたった学会活動

1) 女性代議員の選出

2) クオータ制による女性理事の選出

3) 各種委員会における女性委員の積極的登用

1. 男女共同参画の視点にたった学会活動

1) 女性代議員の選出

クオータ制による女性理事

| 年度 | 2006 | 2008 | 2010 | 2012 | 2014 | 2016 | 2018 | 2020 | 2022 |
|------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 女性代議員数 | 56 | 52 | 49 | 49 | 50 | 45 | 63 | 84 | 88 |
| 女性代議員比率 | 9.4 | 8.7 | 8.2 | 8.2 | 8.6 | 7.8 | 10.8 | 14.4 | 15.1 |
| 女性代議員不在 都道府県数 | 24 | 23 | 23 | 23 | 25 | 26 | 23 | 16 | 13 |

女性代議員数は2倍に

女性不在県は1/2に

2013年の代議員選挙の際に、五十嵐会長から会員に向けて「女性代議員および40台若手代議員の立候補をうながすメッセージ」が出された。2015年以降の選挙にあたっては歴代会長より同様のメッセージが発信されている。

1. 男女共同参画の視点にたった学会活動

2)クオータ制による女性理事の選出

| 年度 | 2006 | 2008 | 2010 | 2012 | 2014 | 2016 | 2018 | 2020 | 2022 |
|----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 男 | 19 | 19 | 20 | 20 | 20 | 20 | 22 | 23 | 23 |
| 女 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 2 | 3 | 2 | 2 |



クオータ制による女性理事

理事選挙：各ブロックに追加して女性全国区1名(2015年総会承認)

2018年から副会長2名のうち1名が女性

1. 男女共同参画の視点にたった学会活動

3) 各種委員会における女性委員の積極的登用

日本小児科学会各種委員会の女性比率(ワーキンググループも含む)

| 年度 | 2006 | 2008 | 2010 | 2012 | 2014 | 2016 | 2018 | 2020 | 2022 |
|------|-------|-------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 委員会数 | 25 | 33 | 37 | 46 | 33 | 31 | 37 | 39 | 38 |
| 男性 | 235 | 345 | 440 | 552 | 445 | 436 | 437 | 383 | 457 |
| 女性 | 31 | 46 | 48 | 59 | 56 | 79 | 104 | 137 | 168 |
| 合計 | 266 | 391 | 488 | 611 | 501 | 515 | 541 | 520 | 625 |
| 女性比率 | 11.7% | 11.8% | 9.8% | 9.7% | 11.2% | 15.3% | 19.2% | 26.3% | 26.9% |

10年で2.5倍に



日本小児科学会の基本方針

2. 意識啓発

- 1) 学術集会の女性座長の登用
- 2) 学術集会、講演会での男女共同参画に関する啓発
シンポジウム、特別企画、カフェ企画
- 3) 若手・女性医師支援の講演会などの企画
- 4) HPで男女共同参画活動情報発信

2. 意識啓発

1) 学術集会の女性座長の登用

| | 一般演題 | 各種シンポジウム |
|-----------|-------|----------|
| 2010(岩手) | 5.7% | 2.8% |
| 2011(東邦) | 8.1% | 9.1% |
| 2012(久留米) | 8.6% | 2.2% |
| 2013(広島) | 9.3% | 3.4% |
| 2014(三重) | 7.3% | 2.3% |
| 2015(大阪) | 20.4% | 20.4% |
| 2016(札幌) | 12.5% | 12.5% |
| 2017(東京) | 33.0% | 11.2% |
| 2018(福岡) | 50.0% | 14.6% |
| 2019(金沢) | 43.3% | 9.2% |
| 2020(神戸) | 47.8% | 12.0% |

一般演題は約半数、
各種シンポジウム
は10%に増加

2. 意識啓発

2)学術集会における男女共同参画に関する啓発活動

シンポジウム

- ・ 2015年 先輩に学ぶキャリアの積み方・活かし方
- ・ 2016年 同 Part2
- ・ 2017年 同 Part3
- ・ 2018年 小児科医に明日はあるのか
- ・ 2019年 小児科医の働き方ー今までとこれから
- ・ 2020年 海外における男女共同参画-日本と比較した利点と問題点
- ・ 2022年 雇用機会均等法、男女共同参画そして働き方改革

教育講演

- ・ 2021年 医学部におけるキャリア教育の実践
(広島大学医学教育センター 蓮沼直子)

第126回日本小児科学会学術集会 2023年4月14-16日 東京

・ 特別企画

『これからの小児医療に求められる
ダイバーシティの推進—エビデンスに
基づき土壌作りは学生時代』

・ カフェ企画

- ・ 現地とオンラインによる。

男女共同参画推進委員会 Café 企画

自分らしい小児科医としての人生を実現するために、
時間をどう使っていくのか
学会としてどう後押ししていくのか
みんなで考えよう！将来の小児科医としてのキャリア形成を

日時 4月15日 土 10:40～11:40

場所

現地参加：グランドプリンスホテル新高輪

オンライン参加：

男女共同参画推進委員会では、上記をテーマに、以下のような悩み・経験をお持ちの方が、本音で話し合える場を提供したいと考えております。

- ・ 家族と仕事の両立で悩んでいる先生方
- ・ みんなが充実した働き方の提供に悩む管理者の先生方
- ・ 自分自身の環境にあったキャリア形成のアドバイスが必要な方
- ・ 働き方改革の取り組み等で、周囲にも共有したい経験をお持ちの先生方
- ・ その他、働き方やキャリア形成に関する悩みやご提案をお持ちの先生方

上記のほか、男女共同参画に関する話題であれば、悩み・相談・提案・等何でも大歓迎です。若い先生方は「お悩み」を、年配の先生方は「経験談」をお話して頂き、みんなで共有出来れば最高だと思っています。是非ご参加下さい。

2. 意識啓発

4)HPで男女共同参画活動情報発信

公益社団法人
日本小児科学会
Japan Pediatric Society

会員専用ページへ

リンク > サイトマップ > English 検索キーワードを入力 検索

HOME > 各種活動 > 男女共同参画推進 > リレーコラム キャリアの積み方—私の場合

リレーコラム キャリアの積み方—私の場合

「医師の子育てを応援するリレーコラム」が「リレーコラム キャリアの積み方—私の場合」とタイトルを変え小児科医のキャリア形成という幅広い視点から先輩医師に語っていただきます。
子育てのみならず、留学、サスペンディ、転職、ガラスの天井の打ち破り方など多岐に渡る経験談をぜひあなたのキャリア形成の参考に！

| | | |
|---|---|---|
| 44. 事件は「現場」で起きています 2023年 野崎 真紀 (神田記念小児神経学クリニック) | 43. 人それぞれ、できるときにできることを 2023年 井上 巴香 (金沢医療センター) | |
| 42. 私は何屋さん?小児循環器、そして医学教育 2022年 岡崎 三枝子 (秋田大学) | 41. なりゆきでも次の船に乗り換えは拓ける 2021年 中西 真理子 (大阪大学) | 40. 留学とチャレンジのすすめ 2021年 森谷 邦彦 (東北大学) |
| 39. 感謝の気持ち 2021年 林 仁美 (福岡大学) | 38. ミャンマーの子どもたちとともに 2021年 荒川 泰子 (ミャンマー在住) | 37. 臨床と研究と育児と 2021年 入月 浩美 (新潟大学医学部総合病院) |

赤坂真奈美委員長

子育てリレーコラム 9

両立のススメ

岩手医科大学小児科 赤坂真奈美

11歳の時に父が他界。主治医は“子供達も小さいし、お父さんも若いにお気の毒です。”と、我々家族にも配慮した言葉かけをしてくれました。その医師が自治医大出身であると知り、私も同大を目指し弱い人の心に寄り添える医師になりたいと思いました。以来なんとか医師を続けています。

幸い理解のある主人と出会いました。ずっと勤務地が違い、単身赴任で、私にほぼ休みがない生活に文句も言わず協力してくれます。長男を妊娠したのは、一人診療所の時。まだ義務年限中で医局とは縁がなく、具合が悪くてもどこを頼ればいいのか分からず、仕事も休めず、無事に出産できるか不安でした。次男妊娠時は、新生児、重症児と毎晩呼び出される超多忙な中核病院の一人小児科長。妊娠中は体調が悪く、ミスしたらどうしよう、患者さんや他の医師に迷惑をかけるのではないかと、弱気になりました。責任感が強く、完璧に育児や仕事をしたい女医さんほどやめたいと思うのかもしれませんが。

近年女医さんの待遇は改善しつつありますが、選択科や地域で差があります。医師不足の岩手でも、安心して妊娠期を過ごし、職場復帰できるよう協力は惜しみません。妊娠・子育て中の女医さん達も権利ばかりを主張せず、できることを精一杯やり、夜間や休日、産休中をカバーしてくれている先生方への感謝を忘れず頑張っていれば、きっとみんなが認め、両立を尊敬してくれます。

現在私は義務年限を終了し、常勤での大学勤務7年目。当直は月に3-4回(勤務当初は7-8回)、月の半分は小児神経のオンコールです。長男は小さい頃から多忙な私と一緒に料理をして(させられて?)育ち、今では私よりおいしい食事やスイーツを作れます。次男が小さい頃は、私が当直や呼び出しで夜間病院に出かけるとき、いつもベツをかいていましたが最近では、“お母さん、カッコイイね”とほめてくれます。朝の弁当作り、学校行事、クラブ活動、PTA に子供会。当直明けでも容赦なく日常が待っていますが、子供達のおかげで仕事以外の視野が広がり、毎日忙しくても小さな幸せでいっぱいです。

赤坂真奈美
岩手医科大学小児科助教
(小児神経)
平成5年自治医科大学卒業
整形外科の夫(単身赴任)
(自治医大の同級生)
中学2年生の長男と
小学5年生の次男

2. 意識啓発

地区小児科学会(ブロック別学会)での企画(2017～18年度)

| 開催日 | 名称 | 担当大学 | 会長 | 企画 |
|----------------|---------------|---------|-------|---|
| 2018年3月11日 | 第31回近畿小児科学会 | 京都大学 | 平家 俊男 | ワークショップ 「みんながハッピーになる男女 共同参画とは」 |
| 2018年8月19日 | 第54回中部日本小児科学会 | 名古屋市立大学 | 齋藤 伸治 | シンポジウム 「男性からみた男女共同参画」 |
| 2018年9月16日 | 第70回北日本小児科学会 | 秋田大学 | 高橋 勉 | シンポジウム 「まめでらか?～みんなが元気に 働くために～」 |
| 2018年11月23日 | 第43回東日本小児科学会 | 千葉大学 | 下条 直樹 | 特別講演 「ダイバーシティ推進と働き方 改革～一人ひとりが輝くキャリア アップを目指して～」 |
| 2018年11月25日 | 第70回中国四国小児科学会 | 愛媛大学 | 石井 榮一 | シンポジウム 「男性も女性も笑顔になれる ワークライフバランス」 |
| 2018年11月17～18日 | 第71回九州小児科学会 | 鹿児島大学 | 河野 嘉文 | 企画なし |

日本小児科学会の基本方針

3. 環境整備

1) 復職支援

2) 子育て支援

3) 勤務時間への配慮

4) 勤務形態の多様性

3. 環境整備

1) 復職支援

- ・ 離職した医師の復職支援のための再研修プログラム
- ・ 小児科医バンクの運用(2007年7月～2019年12月)
 - ・ 2006年にパイロットプロジェクトとして大阪地区に限定して運用開始
 - ・ 2007年7月から日本全国を対象に運用。
 - ・ 期間中のアクセス数 1日平均2、30件。

小児科医バンク

— 求人情報 —

提供

日本小児科学会

旧：小児科医のQOLを改善するプロジェクトチーム
旧：女性医師の職域での環境改善プロジェクト委員会

連絡先：

日本小児科学会事務局

FAX:03-3816-6036

担当：小児科医バンク係

・ [求人情報一覧](#)

・ [求人情報登録](#)

3. 環境整備

子育てのための勤務配慮に関するアンケート調査

- 目的: 子育てのために勤務配慮を受けた医師が、その後どのような経過をたどっているのかを調べ、課題を抽出する。
- 対象: 日本小児科学会研修施設のうち、大学附属病院111施設。
- 方法: 各医局人事担当者宛てに無記名アンケートを郵送し、2015年12月に回収した2015年4月時点での人事の現況および2005年4月～2015年3月の10年間における勤務時間や働き方の配慮を受けた状況と問題点について質問した。
- 結果: 66施設(59.5%)から回答を得た。医局の所属医師数として記入されたものは3,572人で、女性医師の比率は35.5%であった。

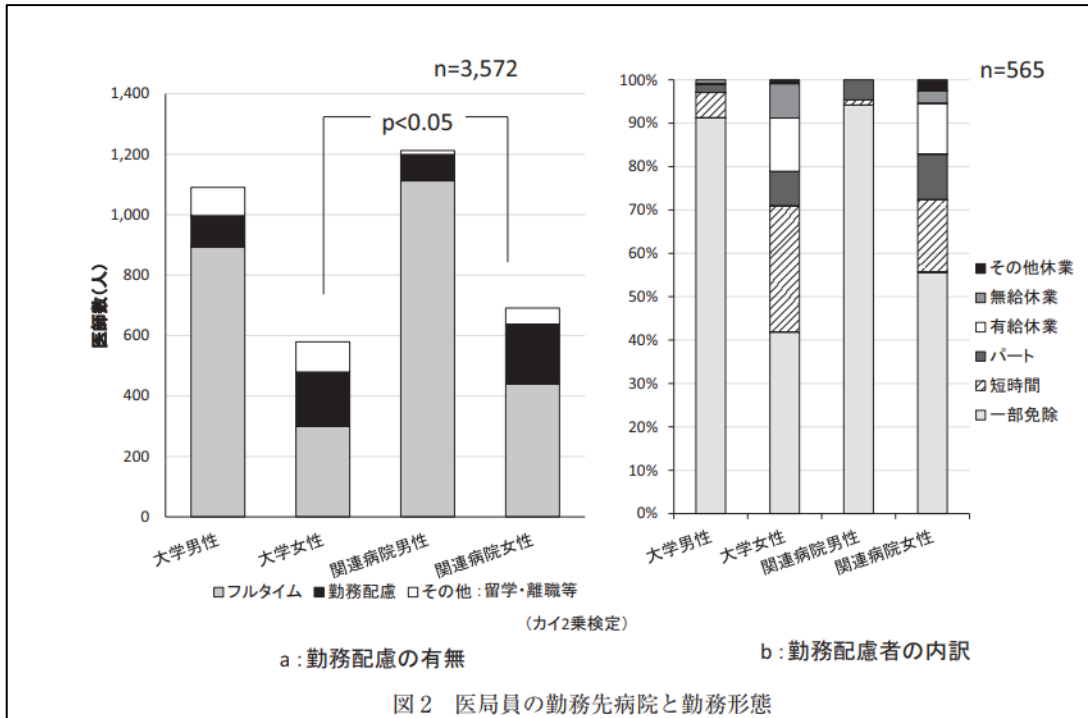
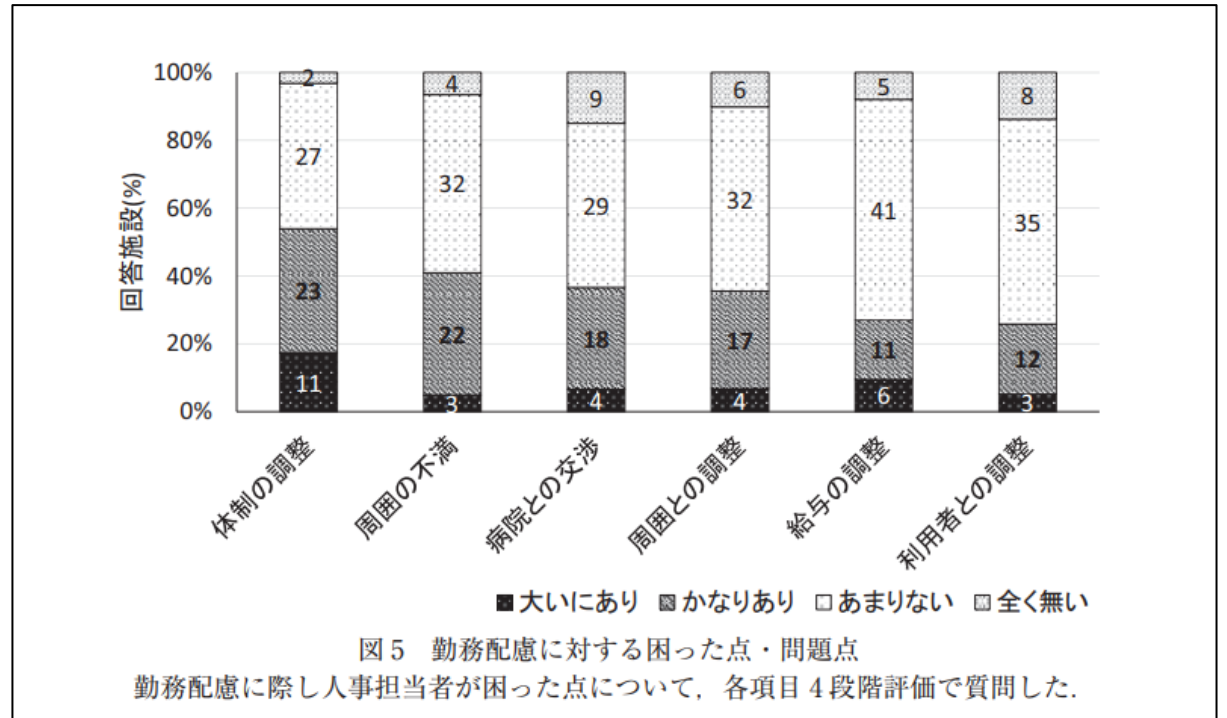


図2 医局員の勤務先病院と勤務形態



- 女性医師では、大学病院で関連病院より勤務配慮を受けて働いている医師の比率が高かった。
- 勤務配慮の内容は短時間正規雇用及び有給休業は女性医師に有意に多かった。

- 勤務配慮について困った点(平均より割合が多かった項目)
- 体制の調整(本人の要望と実際の勤務との調整)
 - 周囲の不满

2022年学術集会
シンポジウムの
テーマ

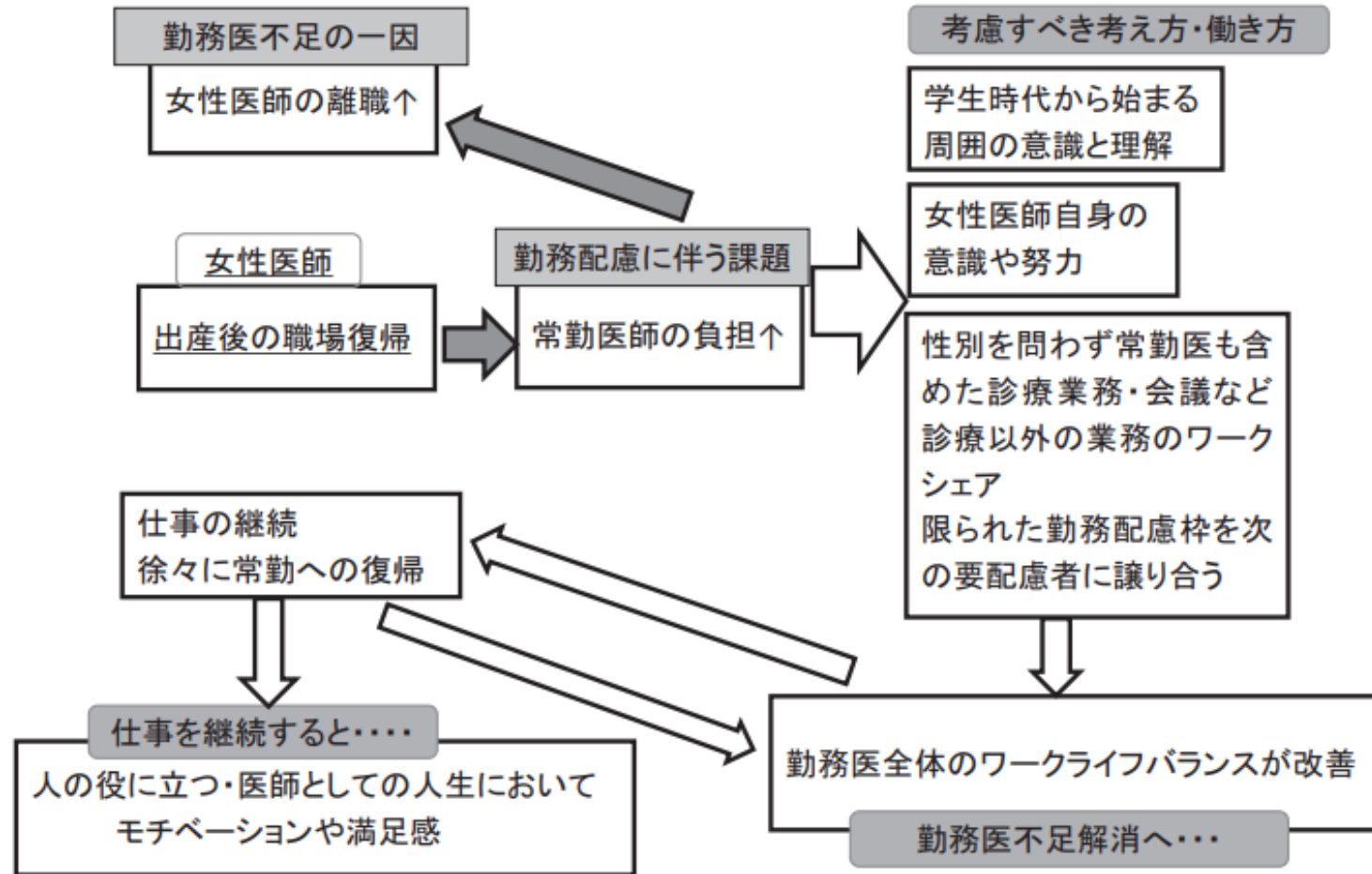


図6 勤務環境の改善にむけたアルゴリズム

勤務配慮に関する課題に対する方策とアルゴリズムを示した。灰色矢印は悪循環、白矢印は改善方向にすすむものを表す。

日本小児科学会の基本方針

4. 教育

- 1) 学生へ
- 2) 管理職へ
- 3) 関係者へ
- 4) 小児科受診者へ

医学教育の講義に取り入れる

(平成22年から文科省通達)

学生を含めてのシンポジウムの開催など

4. 教育

大学医学部におけるワークライフバランスの取り組みについての調査

- 目的と方法: 大学医学部におけるワークライフバランスに関する講義とホームページ上の記載の有無の実態を明らかにするために、全国の大学医学部80校に、郵送にてアンケートを行った。
- 調査期間: 2013年12月～2014年1月。
- 結果:
 - 回答率 58%(47/80大学)。
 - ワークライフバランスをテーマに取り上げた学生講義が有る大学は24校, 回答した大学の51%(24/47大学)。
 - ホームページでワークライフバランスの内容の記載がある大学は25校, 回答した大学の53%(25/47大学)。

男女共同参画推進委員会の 今後の課題

今期の男女共同参画推進委員会の課題

1. 学術集会、地区小児科学会でのシンポジウム、カフェ企画
2. リレーコラム
3. 理事、代議員などの女性比率を増やす活動
4. エビデンスに基づくリーダーシップ調査
5. 多様な働き方の実態調査と提言

働き方モチベーションアップ タスク表

氏名 : _____ 卒業年 _____ 年 勤務形態 フルタイム ・ 当直なしフルタイム ・ 時短勤務 ・ その他

| | | | | | | | | | | | |
|-------|---------------------|------------------|------------|-------------------|--------------------|-------------------|---------------------|---------------------|-------------------|-----------------------|--------------------------|
| 一般外来 | 問診 | 診察 | 検査(採血・点滴) | カルテ入力 | 予防接種問診 | 予防接種を打つ(シナジス外来含む) | 予防接種スケジュールを確認する | 検査の説明同意 | 他科コンサルテーション | 検査時鎮静対応 | 平日日中の救急車対応 |
| 専門外来 | 問診 | 診察 | 検査(採血) | カルテ入力 | 小児慢性・診断書など書類作成 | 検査の説明同意 | 負荷試験 | 超音波検査・特殊検査 | 検査同意書取得 | 乳児検診診察 | |
| 病棟業務 | 処置(点滴など) | 問診 | 注射オーダー | 処方薬オーダー | 入院診療計画書等書類作成 | 患者説明(IC) | 各種検査・処置同意書取得 | 超音波検査 | 特殊検査(髄液検査・骨髄検査など) | IC記録のカルテ入力 | 検査時鎮静対応 |
| 新生児業務 | NICU/GCU回診 | 注射薬オーダー | 処方薬オーダー | カルテ記載 | 指示書確認 | 検査・処置 | 検査時鎮静対応 | 超音波検査 | 分娩立会いおよび新生児蘇生 | 新生児(産科)回診 | 患者説明(IC) |
| 当直業務 | 病棟回診 | 申し送りを聞く・作る | 救急外来の問診 | 救急外来の診察 | 救急外来の投薬 | 救急外来の検査・処置 | 救急外来のカルテ入力 | 救急入院患者対応 | 病棟入院患者急変時対応 | 医師による受診相談電話の対応(#8000) | 夜間オンコール |
| 休日日直 | 病棟回診 | 申し送りを聞く(申し送りを作る) | 救急外来の問診 | 救急外来の診察 | 救急外来の投薬 | 救急外来の検査・処置 | 救急外来のカルテ入力 | 救急入院患者対応 | 病棟入院患者急変時対応 | 医師による受診相談電話の対応(#8000) | 休日夜間オンコール |
| 病診連携 | 希望受診先の確認 | 紹介先への連絡 | 診療情報書の作成 | 紹介状返事作成 | 多職種カンファ(退院前連携) | 転院先への搬送・同乗 | 移行期医療対応(成人科への引き渡し役) | 他科・他院からのコンサルテーション対応 | | | |
| 教育・指導 | 学生Bed side teaching | 学生レポートチェック | 学生講義 | 試験問題作成 | 試験監督 | 学生チューター | 看護学生講義 | 院内看護師教育 | 初期研修医指導 | サブスペシャリティ指導 | シミュレーション教育講師(PALS,NCPR等) |
| 専攻医指導 | 学会発表スライドチェック | カンファレンス資料チェック | 症例報告作成チェック | 臨床研修手帳到達度チェックとサイン | Mini CEX(診察能力評価) | DOPS(臨床手技評価) | 専攻医ふりかえり | 専攻医向け講義 | | | |
| 院外活動 | 学会会議出席(学会・班会議など) | 行政との交渉・会議 | 学校医 | 自治体健診 | 一般外来出張応援診療(プール医含む) | 市民講座等講演 | 医ケア児等の在宅訪問診療 | 学校保健活動 | 各都道府県こどもの健康習慣事業担当 | 大学入試等面接官 | 休日夜間診療所【急患センター】への出向 |
| 臨床研究 | 研究計画書を書く | 患者への説明同意 | 治験の説明同意 | IRBへの参加 | 全国疾病調査票記載(二次調査含) | 研究実施 | 研究報告書作成 | | | | |

その他実施できる業務を自由に記載してください

各欄に直接印を記入してください

評価例()に

したがって記入してください

評価例A(タスクシェア向け)

○: 現状で可能

△: できるための条件が整わない

×: 行うためのスキルがない

評価例B(スキルチェック向け)

○: 自分でできる(条件付の場合も含む)

△: 補助を要する

×: 現状ではできない

評価例C(事業見直し向け)

○: 自施設で必要・不足している

△: 自施設で見直し可能・手が足りている

×: 自施設では行っていない・必要ない

共に歩むダイバーシティ推進に向けて

- 2002年の「小児科女性医師の働く環境改善委員会」設立から20年、男女共同参画社会に向けて、一定の成果を得た。
- COVID19後の「医師の働き方改革」は、男性、女性のさまざまな働き方を選ぶ医師の協働なしには実現しえない。
- 日本小児科学会男女共同参画推進委員会は、小児科学会内外の各種団体・委員会と連携し、ダイバーシティの推進に寄与したい。